

東証プライム

証券コード 5957



2026年12月期 第2四半期 決算補足説明資料

2026年8月7日
日東精工株式会社

NITTOSEIKO
Taking new steps forward together

1. 2026年12月期第2四半期 業績概要

2. セグメント別業績概要

3. 2026年12月期 業績予想

4. 参考資料

1. 2026年12月期第2四半期 業績概要

業績ハイライト

(単位：百万円／％) **NITTOSEIKO**

	FY2025/2Q		FY2026/2Q		前年同期比		2Q予想比（2026/5/13時点）		
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	2Q予想	増減額	増減率
売上高	23,859	100.0	25,352	100.0	1,492	6.3	25,000	352	1.4
売上原価	18,082	75.8	19,085	75.3	1,002	5.5			
売上総利益	5,776	24.2	6,266	24.7	490	8.5			
販売管理費	4,297	18.0	4,325	17.1	27	0.6			
営業利益	1,479	6.2	1,941	7.7	462	31.3	1,800	141	7.8
経常利益	1,406	5.9	1,938	7.6	531	37.8	1,800	138	7.7
親会社株主に帰属する 当期純利益	851	3.6	1,203	4.7	352	41.4	1,100	103	9.4
一株当たり当期純利益（円）	23.48		33.14				30.30		

決算のポイント

売上高

+6.3%

- ファスナー事業はインドでの売上が好調。ゲーム機向けは生産調整で減少したものの、国内自動車向けがCASE関連におけるADAS（先進運転支援システム）中心に好調。東南アジアの家電向けは、中国からの生産移管もあり好調に推移。
- 産機事業は主力の自動車で国内はEV開発中止、モデルチェンジ減少などの影響で伸び悩んだものの、海外はインドの好調に加え、米国・タイ・韓国での設備投資が改善。データセンター関連の増加、汎用エンジン用大型設備の売上もあり増収。
- 制御事業は環境分野におけるPFAS対応製品の初動販売が落ち着いた影響があったが、エネルギー分野で石油化学向けの大型案件があり増収。

営業利益

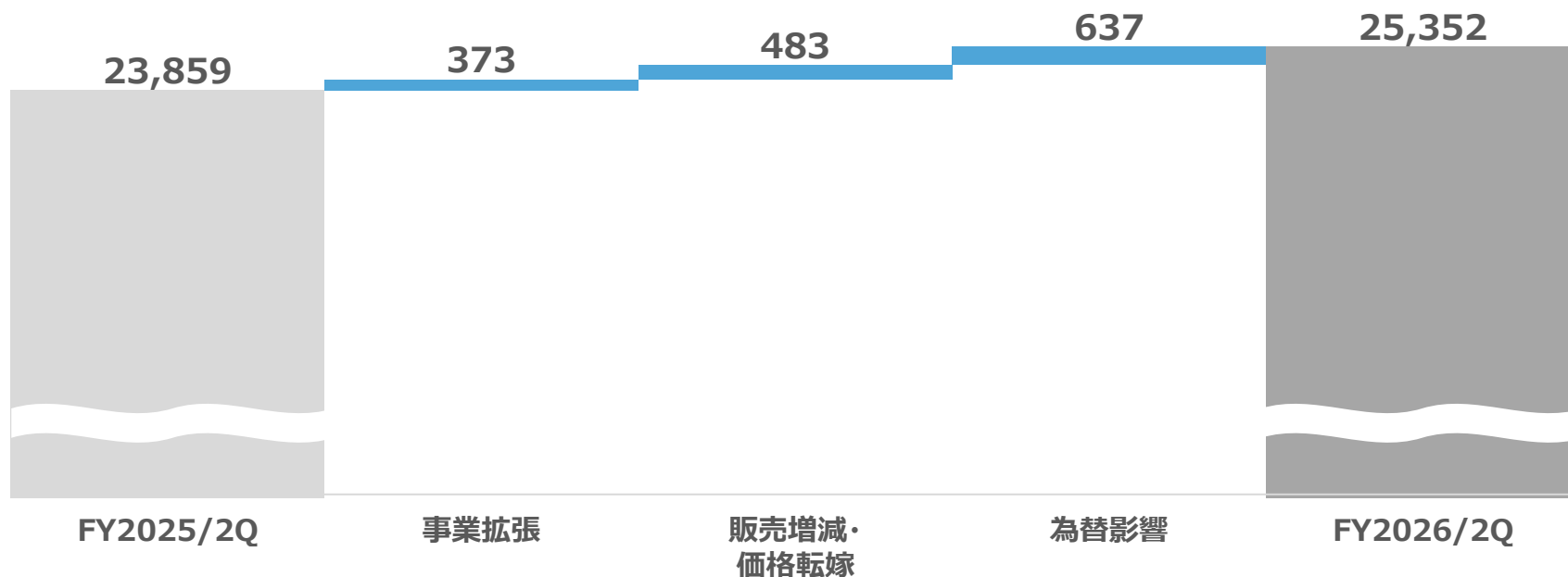
+31.3%

- 売上高増加および自動車・データセンター向け高付加価値製品の増加に加え、2025/1QはM&A関連費を286百万円計上したため、前年同期比で販管費が減少し増益。

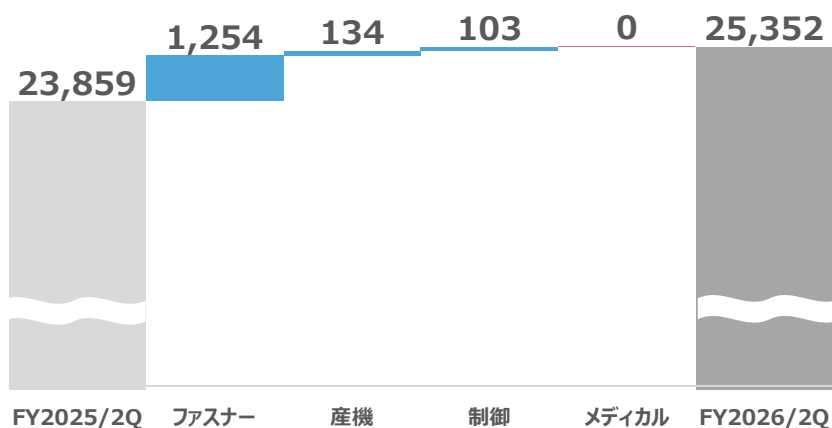
売上高 増減要因

NITTOSEIKO

(単位：百万円)



セグメント別売上高増減



事業拡張

インドでの自動車・二輪車向け売上が貢献。

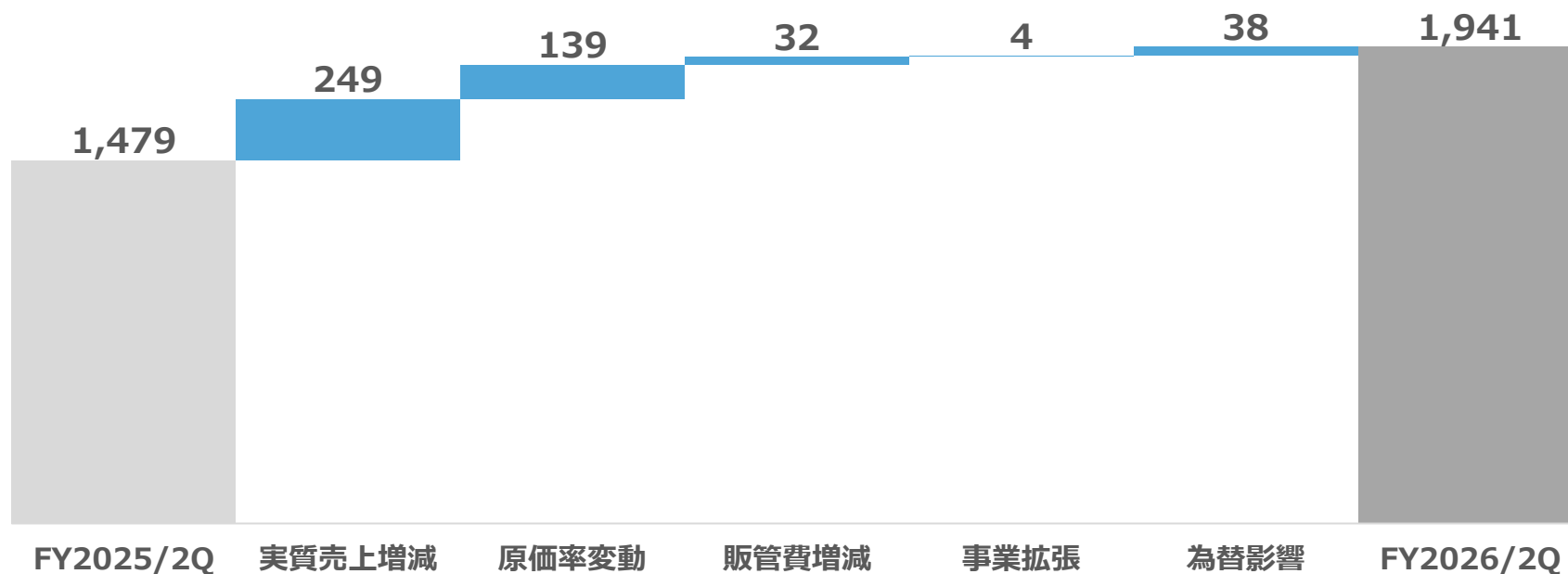
販売増減

国内自動車向けのCASE関連、東南アジアの家電向けのファスナー製品が好調。産機の汎用エンジン用大型設備、制御の石油化学向け大型案件も売上に貢献。データセンター向けなど生成AI関連も複数セグメントで需要拡大。

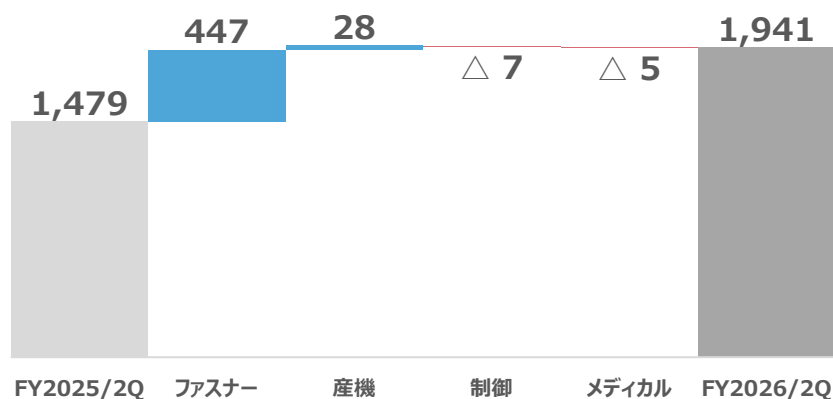
営業利益 増減要因

NITTOSEIKO

(単位：百万円)



セグメント別営業利益増減



原価率 変動要因

自動車向けを中心とした高付加価値のファスナー製品が好調。資材高騰の影響を受ける中、調達先・発注方式の見直し、金型改善、内製化推進などによる製造コスト低減を推進。

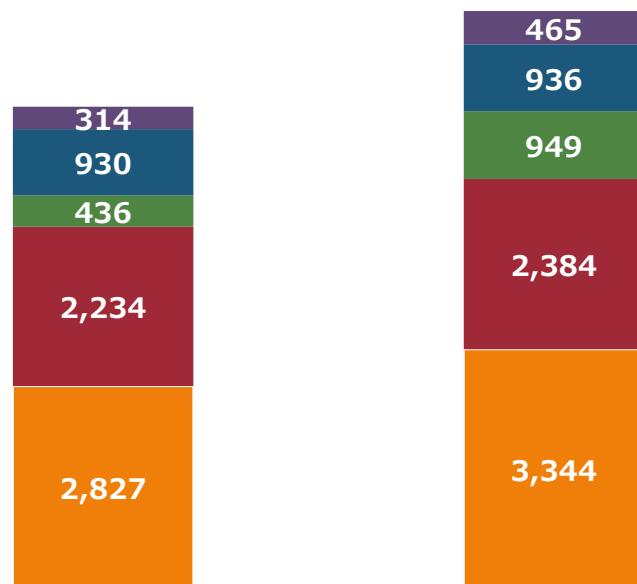
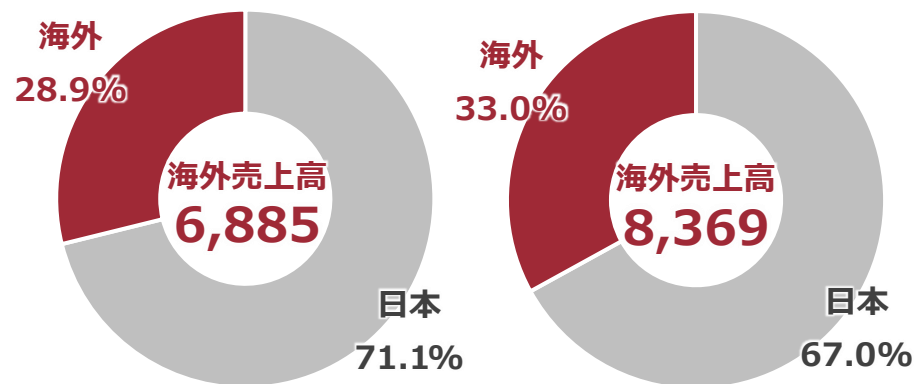
販管費 変動要因

海外子会社監査に伴う費用増加、株主優待費用計上、賃上げによる労務費増加などがあったが、2025/1QにM&A関連費用を計上した影響で全体では減少。

(単位：百万円)

2025/2Q

2026/2Q



■ 東南アジア ■ 東アジア ■ 南アジア ■ 北米 ■ 欧州

FY2026/2Qの概況

- 前年同期比で南アジア（インド）と東南アジアが伸長し、海外売上全体は増加。
- 南アジアで5.1億円増。南アジア以外の海外全体で9.7億円増。うち、為替による影響で6.3億円増。

欧州

+48.0%

石油精製、石油化学向けの元素計が好調。

北米

+0.7%

米国関税措置の影響で住宅建築向けのファスナー製品が低調。

南アジア

+117.7%

インド向け拡販で増加。

東アジア

+6.7%

中国で自動車向けファスナー製品が好調。

東南アジア

+18.3%

マレーシアで家電向けのファスナー製品が好調。

貸借対照表

(単位：百万円／％) **NITTOSEIKO**

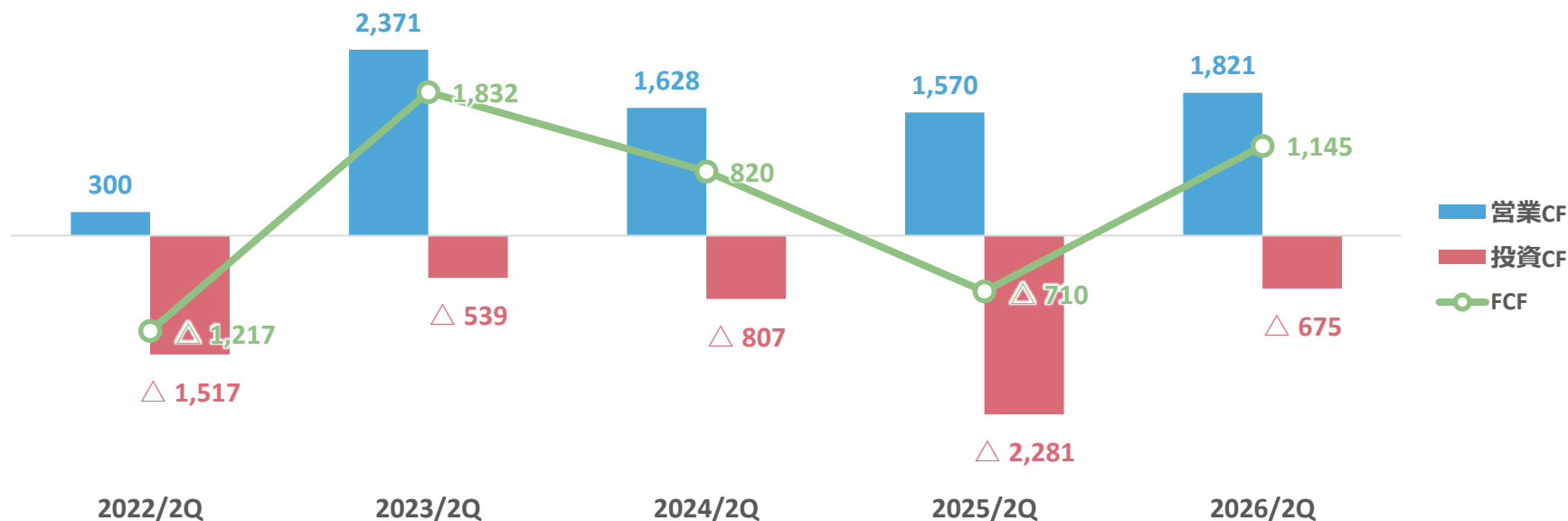
	FY2025/4Q		FY2026/2Q		前期末比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
流動資産合計	35,850	62.2	35,454	61.9	△ 395	△ 1.1
現金及び預金	10,493	18.2	10,728	18.7	235	2.2
売上債権	12,477	21.6	11,614	20.3	△ 863	△ 6.9
棚卸資産	11,753	20.4	12,387	21.6	634	5.4
固定資産合計	21,822	37.8	21,816	38.1	△ 6	△ 0.0
有形固定資産	15,661	27.2	15,542	27.1	△ 118	△ 0.8
無形固定資産	1,082	1.9	1,007	1.8	△ 75	△ 7.0
投資その他の資産	5,078	8.8	5,266	9.2	187	3.7
資産合計	57,673	100.0	57,270	100.0	△ 402	△ 0.7
流動負債合計	11,833	20.5	10,776	18.8	△ 1,056	△ 8.9
仕入債務	7,101	12.3	6,154	10.7	△ 946	△ 13.3
短期借入金	1,714	3.0	1,271	2.2	△ 443	△ 25.9
固定負債合計	4,837	8.4	4,480	7.8	△ 356	△ 7.4
長期借入金	962	1.7	696	1.2	△ 265	△ 27.6
負債合計	16,670	28.9	15,257	26.6	△ 1,413	△ 8.5
資本金	3,522	6.1	3,522	6.2	—	—
資本・利益剰余金	32,208	55.8	32,969	57.6	760	2.4
自己株式	△ 1,746	△ 3.0	△ 1,752	△ 3.1	△ 5	—
純資産合計	41,002	71.1	42,013	73.4	1,010	2.5

連結キャッシュフロー計算書

NITTOSEIKO

(単位：百万円／％)

	FY2025/2Q	FY2026/2Q		
	金額	金額	増減額	増減率
営業活動によるCF ※①	1,570	1,821	250	15.9
投資活動によるCF ※②	△ 2,281	△ 675	1,605	-
(フリーCF) ※① + ②	△ 710	1,145	1,855	-
財務活動によるCF	384	△ 1,224	△ 1,609	-
現金及び現金同等物の増減額	△ 470	53	523	-
現金及び現金同等物の期首残高	9,604	9,430	△ 174	△ 1.8
現金及び現金同等物の期末残高	9,134	9,483	349	3.8



2. セグメント別業績概要

セグメント別売上高・営業利益

NITTOSEIKO

(単位：百万円／％)

		FY2025/2Q	FY2026/2Q	前年同期比	
		金額	金額	金額	増減率
ファスナー事業	売上高	17,727	18,981	1,254	7.1
	営業利益	887	1,334	447	50.5
	利益率	5.0	7.0	—	2.0
産機事業	売上高	2,788	2,923	134	4.8
	営業利益	418	446	28	6.8
	利益率	15.0	15.3	—	0.3
制御事業	売上高	3,288	3,392	103	3.2
	営業利益	230	222	△ 7	△ 3.4
	利益率	7.0	6.5	—	△ 0.4
メディカル事業	売上高	55	54	0	△ 1.2
	営業利益	△ 56	△ 62	△ 5	—
	利益率	—	—	—	—

セグメント別業績概要 ファスナー事業

NITTOSEIKO

(単位：百万円/%)

売上高

前年同期比で増収

自動車業界においてインドでの売上が業績に貢献。前年大幅増のゲーム機向けは生産調整で減少したものの、国内を中心とする自動車のCASE関連需要、東南アジアの家電向け需要が増加。

営業利益

前年同期比で増益

2025/1QにM&A関連費用を計上したため前年同期比で販管費が減少。自動車中心に高付加価値品が好調で利益貢献。加えて、調達先の見直しや金型改善、工場集約に伴う生産工程見直しなどによる製造コスト低減・利益率向上の改革効果が出た。

	FY2025/2Q	FY2026/2Q	前年同期比		コメント
	金額	金額	金額	増減率	
売上高	17,727	18,981	1,254	7.1	
自動車	7,004	8,291	1,287	18.4	インドでの売上が業績に貢献。国内中心にADAS（先進運転支援システム）向けのオリジナル品が引き続き好調で大幅増。軽量化・薄板化貢献の「JOISTUD」も引き合い活発。
住宅・建築	3,528	3,272	△ 255	△ 7.2	業界の深刻な人材不足・資材高騰による計画遅延などが続き、前年同期比で減少。
電機・電子部品	2,376	2,648	272	11.4	中国からの生産移管でマレーシア中心に東南アジアで好調。
雑貨	1,474	1,229	△ 244	△ 16.6	前年好調のゲーム機向け精密ねじは生産調整で減少。受注は継続しており、3Q以降に一定の販売を見込む。
精密機器	768	902	134	17.5	国内でレンズ等の映像・光学向けが増加。コンデジの再ブームによりプレス品も好調。
I T・情報機器	842	847	5	0.6	インドネシアでOA機器向けがやや増加。中国からの生産移管は引き続き進行。
エネルギー関連	237	346	109	45.9	生成AI需要によりデータセンター向けに「CPグループ」が好調。
その他	1,494	1,499	4	0.3	
営業利益	887	1,334	447	50.5	

(単位：百万円/%)

売上高

前年同期比で増収

主力の自動車業界では、国内はEV開発中止、モデルチェンジ減少などの影響で伸び悩んだものの、海外ではインドの好調に加え、米国・タイ・韓国での設備投資が改善。データセンター関連の増加、汎用エンジン用大型設備の売上もあり、前年同期比で増収。

営業利益

前年同期比で増益

資材高騰の影響を受ける中、発注方式の見直しによるコスト削減に加え、作業時間の見える化など作業方法の改善など工数削減を推進。前年同期比で増益。

	FY2025/2Q	FY2026/2Q	前年同期比		コメント
	金額	金額	金額	増減率	
売上高	2,788	2,923	134	4.8	
自動車	1,584	1,641	57	3.6	国内ではCASE関連製品で一定の売上を確保したものの、EV開発中止、モデルチェンジ減少などの影響を受け伸び悩んだ。海外ではインドの好調に加え、米国・タイ・韓国での設備投資が改善。
電機・電子部品	419	366	△ 53	△ 12.6	半導体関連向けの需要は旺盛であるが、サプライチェーン全体の在庫調整を受け販売が伸び悩む。また、主要ユーザー先における設備投資抑制が続き減少。
エネルギー関連	241	186	△ 54	△ 22.4	電力メーター関連の大型設備投資は一段落し減少。ガスメーター関連の老朽化対応は継続を見込む。
I T・情報機器	30	179	148	478.7	国内外においてAI需要拡大に伴いデータセンター関連増。
遊技機	103	111	8	7.8	更新用の大型改造工事などがあり横ばい。
住宅・建築	98	39	△ 59	△ 59.8	主要ユーザーにおける設備投資抑制の影響で減少。
その他	304	397	92	30.2	汎用エンジン用大型設備、老朽化による更新需要により増。
営業利益	418	446	28	6.8	

(単位：百万円／%)

売上高

前年同期比で増収

エネルギー分野で石油化学向けの大型案件があり大幅に増加。自動車関連の自動化・省人化に貢献する検査選別装置も需要が高まった。
一方、環境分野におけるPFAS対応製品の初動販売が落ち着いた影響もあったが、全体では増収。

営業利益

前年同期比で減益

近年の急速なコスト上昇を受け、従来のペースでは価格改定が十分でない状況。3Q以降、原価率の高い品目を中心に追加で価格改定を行い、利益改善を目指す。その他、デザインレビューによる設計改善、調達条件の見直しによる原価低減を実施。

新製品情報

大型クレーン転倒リスクを評価する試験機「GeoJudgeTM」を6月に発売。
ジオジャッジ

	FY2025/2Q	FY2026/2Q	前年同期比		コメント
	金額	金額	金額	増減率	
売上高	3,288	3,392	103	3.2	
化学・薬品	797	780	△ 17	△ 2.2	1Qでは前年に受注残を解消した影響で前年同期比で減少したが、2Qでは分析装置の更新需要が増加し全体ではやや減少。
エネルギー関連	413	659	246	59.5	インドの大手石油化学向けの大型案件があり、元素計の売上が大幅に増加。
電機・電子部品	273	236	△ 36	△ 13.3	電池向け水分計、抵抗率計の需要継続も、前年同期比では減。生成AI需要でデータセンター向け流量計の受注は好調。
住宅・建築	213	212	△ 1	△ 0.6	前年3Qより地盤調査機「ジオカルテⅣ」の更新需要を一定数確保し横ばい。新製品「ジオジャッジ」拡販中。
自動車	180	211	30	17.0	自動化省人化、研究開発への設備投資が活発。自動車部品検査選別機、評価装置の引合いは多く入手できている。
造船	189	195	5	3.0	造船業界の好調により流量計市場も拡大傾向が続く見通し。
環境	336	189	△ 147	△ 43.7	廃棄物処理向け塩素計が好調も、PFAS規制に対応する2024年発売の有機フッ素分析装置の初動販売が落ち着き前年同期比で減少。
その他	884	907	23	2.6	
営業利益	230	222	△ 7	△ 3.4	

セグメント別業績概要 メディカル事業

NITTOSEIKO

(単位：百万円／%)

	FY2025/2Q	FY2026/2Q	前年同期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	55	54	0	△ 1.2
医療	55	54	0	△ 1.2
その他	—	—	—	—
営業利益	△ 56	△ 62	△ 5	—

業績

戦略的な市場対応を目的とした製品ポートフォリオの再編を進めるとともに、安定的な売上基盤の構築を推進。

医療用照明器「FREELED」

コロナ禍を境に顧客要望の高いコスト低減を図りつつ、市場ニーズの収集と提案活動を推進するも、本採用には至らず。今後も販社を通じたPR強化にも注力し、本採用を目指す。

医療用生体内溶解性高純度マグネシウム

2023年の国内特許、2024年の米国特許取得に続き、2026年6月にタイ特許取得。他の主要5ヶ国へ申請済みの特許も順次取得予定。引き続き、早期製品化に向けた取り組みを継続中。また、並行して本素材の適用可能性について情報収集を進める。

その他

2025年には医療機器の品質規格であるISO13485を取得。医療機器開発や製造販売業許可による製造受託案件の獲得に向けた生産体制の構築を進める。

3. 2026年12月期業績予想

本資料に記載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しと異なることがあります。実際の業績等に影響を与えうる重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要 動向、為替、株式市場の動向等があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

連結業績予想

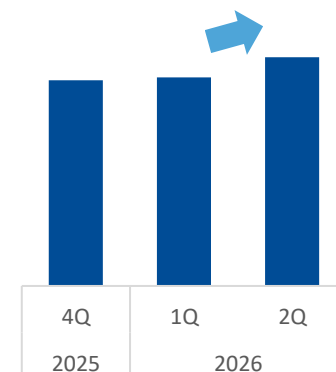
※中東情勢緊迫化の影響とその対応はP18に掲載（再掲）

NITTOSEIKO

（単位：百万円／％）

	FY2025		FY2026（予想）		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	50,238	100.0	52,000	100.0	1,761	3.5
営業利益	3,431	6.8	3,800	7.3	368	10.7
経常利益	3,409	6.8	3,800	7.3	390	11.5
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,152	4.3	2,300	4.4	147	6.9
一株当たり当期純利益（円）	59.34	-	63.36	-	-	-

注残の推移



予想のポイント

成長分野の需要拡大を追い風に、通期業績予想の達成を目指す

売上高

各事業領域の需要動向を反映した安定成長を目指す。

ファスナー事業：国内自動車分野ではADAS向けオリジナル製品が引き続き堅調に推移する見通しであり、高付加価値製品の販売拡大を進める。ゲーム機向け精密ねじは生産調整の影響を受けるものの、2Q後半より受注回復の兆しが見られる。データセンター向け「CPグリップ」の好調継続を見込むほか、海外で日系家電メーカー向け需要の回復や東南アジアでの生産移管需要を取り込み、重点顧客との拡販活動を強化する。

産機事業：世界的なEV市場の成長鈍化や国内大型設備投資の減少影響を受けるものの、海外向け自動車部品・ADAS組立ライン向けねじ締め機や、データセンター関連機器向け需要が堅調に推移。下期は大口受注残の確実な売上化を進めるとともに、標準機の受注拡大やインド市場での営業活動強化により成長機会の創出を図る。

制御事業：システム製品の大口案件が継続するほか、造船市場や海外石油化学向け元素計案件が売上を牽引。電子材料向け水分計や自動粉体抵抗測定システム、PFAS関連需要も堅調に推移。加えて、「GeoJudge™」をはじめとする新製品投入や代理店・顧客との連携強化により、新たな需要開拓を進める。

利益

- ADAS向けオリジナル製品やデータセンター向け製品など高付加価値製品の販売拡大を進めるとともに、調達先の見直し等により製造コスト低減・収益力の向上を目指す。
- 高付加価値製品の比重増加や、特殊機（組立ライン）の大型案件の確実な売上化に加え、新型ナットランナの上市による製品群の拡充を通じて、高収益性と粗利率を確保する。
- システム製品の採算管理強化や設計改善による原価低減に加え、受注増を支える成長製品の拡販を通じて事業ポートフォリオの最適化を進め、安定的な利益成長を目指す。

セグメント別市場動向と取り組み状況

事業	主な市場動向		取り組み状況・今後の取り組み	注残の推移			
ファスナー	自動車	電動化によるバッテリー・インバーター向けニーズ、車両の軽量化・薄板化ニーズなどCASE関連需要は継続しているものの、EV関連の生産計画の見直し、中東情勢・レアアース課題による影響の懸念あり。	- 収益改善活動として新市場拡販プロジェクトを立ち上げ活動を強化 - 代理店との拡販プロジェクトの推進 - 工場再編による工場間輸送の削減、調達先の見直し、金型耐久度アップなどの製造コスト低減・利益率改善	<table><tr><td>4Q 2025</td><td>1Q 2026</td><td>2Q 2026</td></tr></table>	4Q 2025	1Q 2026	2Q 2026
	4Q 2025	1Q 2026			2Q 2026		
	住宅・建築	業界の深刻な人材不足・資材高騰による計画遅延が継続する見込み。					
雑貨	ゲーム機は需要の落ち着きに伴い上期は減産も、一定の生産量まで回復の見通し。						
産機	自動車	中東問題や米国関税政策、EV車向け設備投資計画見直しに伴い不透明な状況が続く。北南米向けの設備投資は継続する見通し。	- ターゲット先へのデモ実演、プライベート展示会の開催などを強化 - データセンター関連への営業強化・完成設備提案の実施 - 発注方式の見直しなどコスト削減の取組みを継続	<table><tr><td>4Q 2025</td><td>1Q 2026</td><td>2Q 2026</td></tr></table>	4Q 2025	1Q 2026	2Q 2026
	4Q 2025	1Q 2026			2Q 2026		
	電機・電子	半導体関連向けの需要は旺盛であるが主要ユーザー先における設備投資抑制はもう暫く継続する見通し。					
エネルギー関連	電力メーター関連の大型設備投資は一段落したが、ガスメーター関連の老朽化対応は継続を見込む。						
制御	エネルギー関連	石油精製、石油化学向けに元素計、自動試料燃焼装置の需要が継続見込み。国内ではSAFなど代替燃料向けの元素計需要拡大の見通し。	- クレーン転倒リスク評価BCT試験装置「GeoJudge™」の拡販 - 技術者の販売同行、セミナー出展による訴求力向上と受注率UP - システム製品の統廃合および成長製品の受注拡大と適正利益確保 - 有機溶剤リサイクル装置・分離膜管の上市	<table><tr><td>4Q 2025</td><td>1Q 2026</td><td>2Q 2026</td></tr></table>	4Q 2025	1Q 2026	2Q 2026
	4Q 2025	1Q 2026			2Q 2026		
	電機・電子	EV、電池用を含む電子材料向けが好調に推移する見込み。					
環境	PFAS関連は欧州で需要が継続。国内は微量ふっ素測定ニーズが増加する見込み。2025年に公定法に採用された小型蒸留装置の国内引き合いも増加中。						
メディカル	開発計画	2024年に米国、2026年6月にタイで「医療用生体内溶解性高純度マグネシウム」の海外特許を取得。他の国でも順次取得予定。同材料の早期製品化に向けて準備を進めると同時に、様々な医療機器領域への適用拡大について探求を進める。当社既存技術を活かした新たな医療機器の製造受託案件の獲得に向けた体制も構築中。					

現時点では軽微な影響と認識。不確実性は高いものの柔軟な対応によりリスクを最小化

外部環境	米国・イスラエルによるイラン軍事攻撃による地政学的リスクを背景にした、原油価格の変動、海上輸送の混乱、サプライチェーンの先行きに対する不透明感
販売への影響	2025年実績で中東向け売上は全体の約0.3%とわずか - 一部自動車メーカーが中東向けの減産分を海外増産へ切り替えるなど生産計画に変更が発生 - 今後、仕入困難により納期遅延が発生する懸念
調達への影響	- 今後、材料・エネルギー・副資材 <ねじ熱処理用メタノール、塗装剤（シンナー）、プラ包装、油等> の入手困難・価格高騰の懸念 - 原油価格高騰・船舶保険料上昇の影響で物流費高騰の懸念
その他の影響	設備投資発注先の資材調達困難により一部工事を中止予定



当社の対応	- 調達先・調達地域の分散・複線化 - リードタイム変動を想定した在庫戦略の見直し - 原価変動に対応した価格調整スキームの構築 - 代替材料の検討、仕様見直し
-------	--

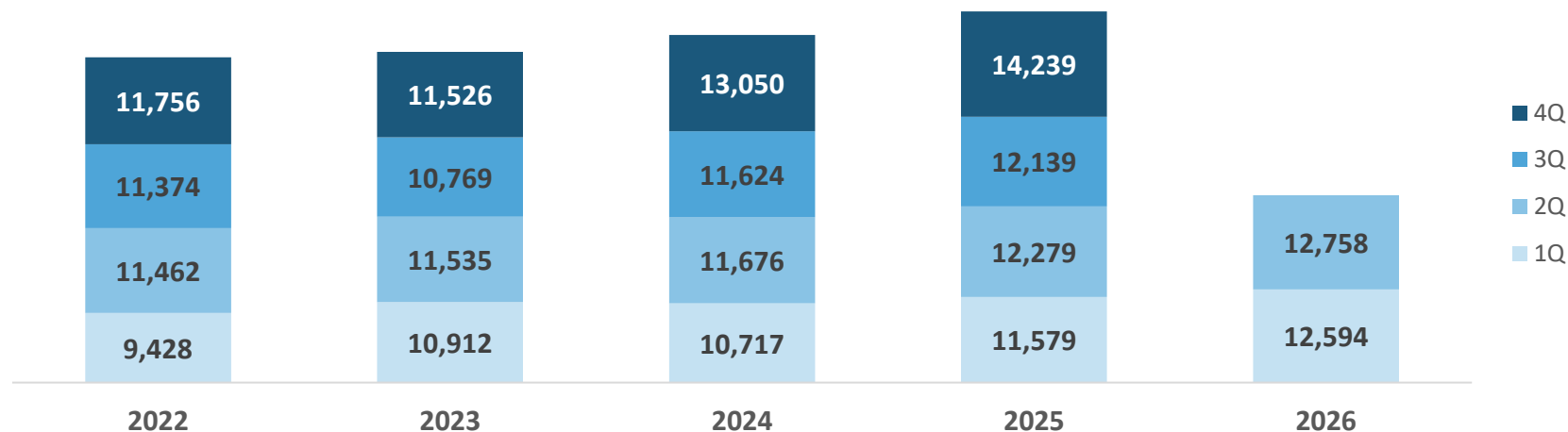
4. 参考資料

四半期ごとの業績推移

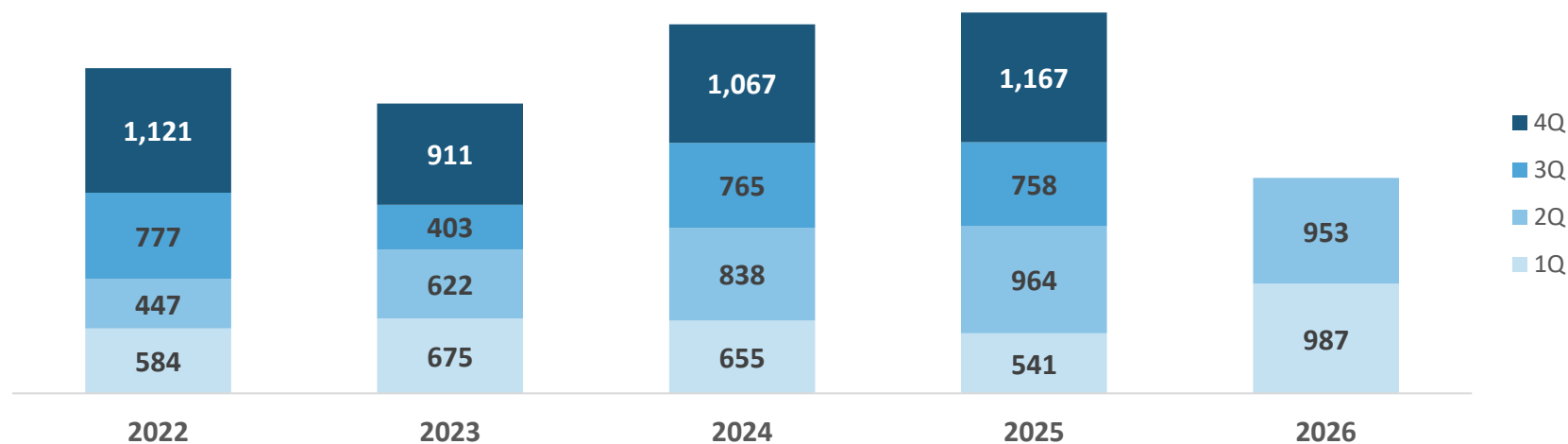
NITTOSEIKO

(単位：百万円)

売上高



営業利益

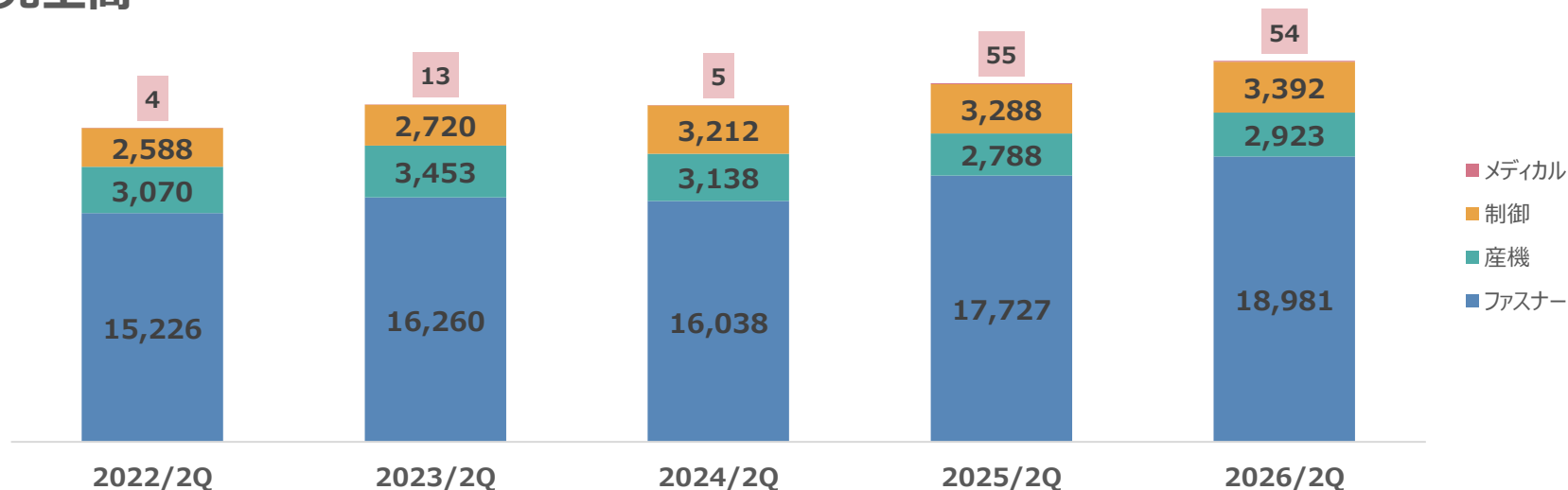


セグメント別業績の同期比較

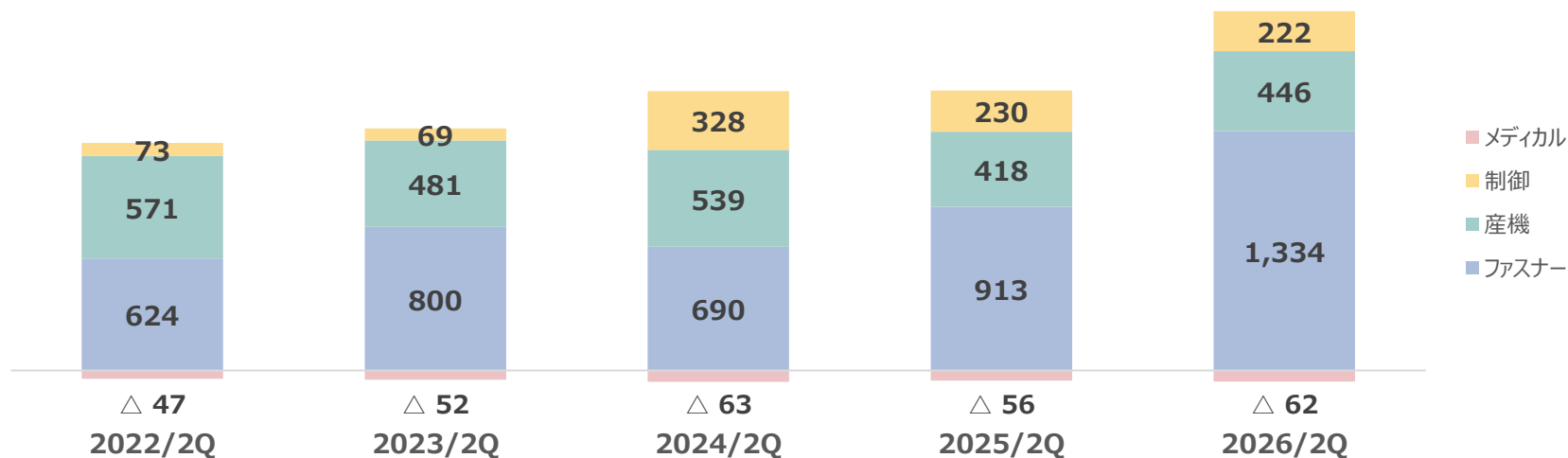
NITTOSEIKO

(単位：百万円)

売上高



営業利益



当社Webサイト IRページ

<https://www.nittoseiko.co.jp/ir.html>

IR お問い合わせ窓口

日東精工株式会社 ESG・IR戦略室

電話：0773-42-3739

E-mail：ir@nittoseiko.com

機関投資家様 個別取材窓口



<https://sharedresearch.jp/ja/companies/5957>



本資料に記載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しと異なることがあります。実際の業績等に影響を与える重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要動向、為替、株式市場の動向等があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

NITTOSEIKO
Taking new steps forward together